

ものづくり・IT 融合化推進技術の研究開発

MZ Platform バイナリデータコンバータ
操作説明書

= Binary Data Converter Manual =

MZ Platform 2.10



独立行政法人
産業技術総合研究所

=目次=

1. 概要.....	3
2. 動作環境.....	3
3. 使用方法.....	3
4. 制限事項.....	5
付録 Javaバイナリデータ（シリアライズデータ）の互換性について.....	5

1. 概要

MZ PlatformはJava実行環境（JRE）で動作しています。そのため、使用するJavaのバージョンが異なると、バイナリ形式（拡張子”.apl”、”.cmp”、”.mzas”、”.mzcs”）で保存したアプリケーションや複合コンポーネントのデータをロードできなくなる場合があります¹。バイナリデータコンバータは、バイナリ形式のアプリケーション／複合コンポーネントのデータを、別のバージョンのJavaのバイナリデータへ変換するツールです。

MZ Platform 各バージョンの Java 実行環境は、標準では以下の通りとなります。

表 1 MZ Platform の標準の Java 実行環境（JRE）

MZ Platform のバージョン	Java 実行環境（JRE）のバージョン
2.0 以前	1.4.2_03
2.1	1.6.0_05
2.2, 2.3	1.6.0_10
2.4	1.6.0_17
2.5	1.6.0_19
2.6	1.6.0_22
2.7	1.6.0_25
2.8	1.6.0_29
2.9	1.6.0_32
2.10	1.6.0_37

2. 動作環境

MZ Platform Ver.2.3 以降をインストール済みであることが必要です。Java 実行環境を含め、すべてをインストールしてください。

3. 使用方法

Windows のスタートメニューから、”バイナリデータコンバータ”を起動します。

[スタート]—[プログラム]または[すべてのプログラム]—[MZ Platform 2.10]
—[バイナリデータコンバータ]

バイナリデータコンバータのウィンドウが表示されます（図 1）。

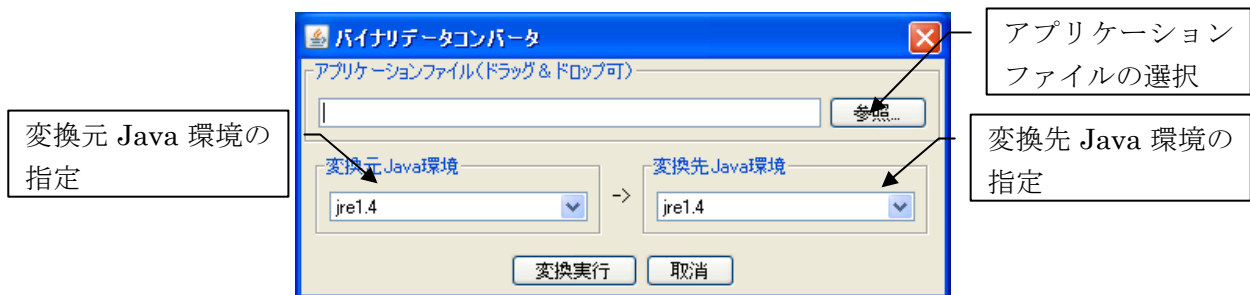


図 1 バイナリデータコンバータ起動ウィンドウ

[参照...]ボタンをクリックし、変換するアプリケーションあるいは複合コンポーネントのファイルを選択します。ファイルのドラッグ&ドロップでも構いません。変換元および変換先の Java 環境を指定し、[変換実行]ボタンをクリックすると変換処理が行われ、変換されたファイルが新しく生成されます。

¹ XML 形式（拡張子”.xml”、”.mzax”、”.mzcx”）のデータは、Java のバージョンが異なってもロードできます。

元のファイルは変更されません。

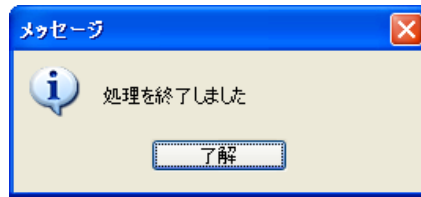


図 2 変換処理終了メッセージ

変換処理が完了したら「処理を終了しました」というメッセージが表示されます（図 2）。ファイルサイズにもよりますが、変換には数分かかることもあります。変換されたファイル名は、<変換前のファイル名>_conv.<拡張子>となります。例えば、元のファイル名が”sample.apl”の場合には、”sample_conv.apl”というファイルが生成されます。

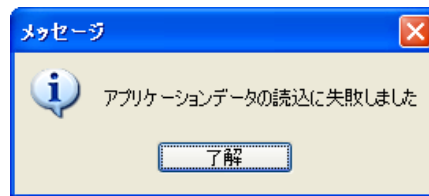


図 3 アプリケーションデータの読込失敗メッセージ

途中で「アプリケーションデータの読込に失敗しました」というメッセージが表示された場合には（図 3）、変換元のJava環境のバージョンに誤りがないか、ご確認ください。Java環境のバージョンは、変換元のファイルをMZ Platformで実際にロードして確認できます。”アプリケーションビルダー（コンソール）”を実行すると図 4のようなコンソール画面が表示され、Java環境情報が示されます。

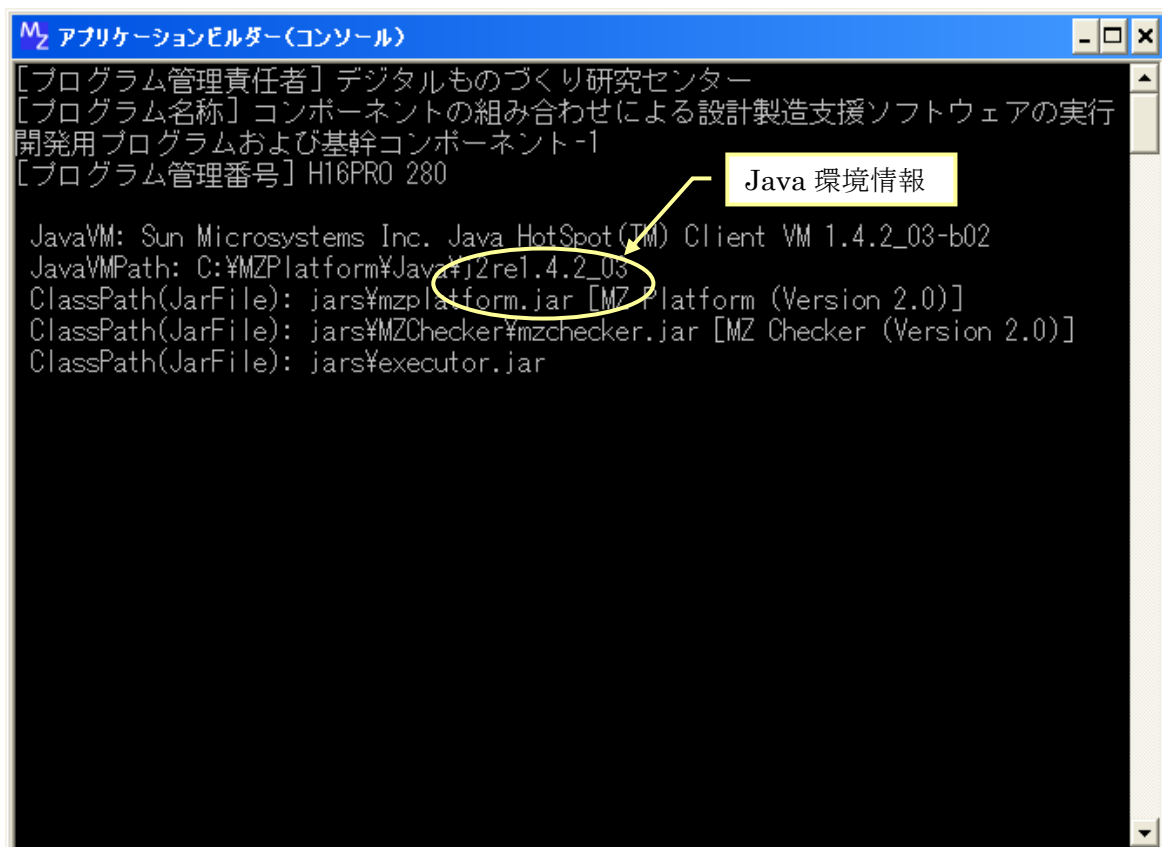


図 4 アプリケーションビルダーコンソール画面

変換元のファイルが起動したアプリケーションビルダーでロードできれば、この Java 環境が変換元のバージョンとなります。Java 環境の変更方法につきましては、インストールガイドの「4. Java 環境の変更」ならびに「5. 動作環境設定」をご覧ください。

4. 制限事項

- このツールは MZ Platform で作成されたアプリケーションデータおよび複合コンポーネントデータを変換するものであり、一般の Java バイナリデータの変換を行うものではありません。
- 表 1 に示した Java 環境以外で作成されたデータからの変換、あるいは、表 1 に示した Java 環境以外のデータへの変換を行う場合には、それに該当するバージョンの Java 環境を別途インストールし、動作環境を必要に応じて設定しなくてはならない場合があります。

付録 Java バイナリデータ（シリアライズデータ）の互換性について

以下は、バイナリデータの互換性に基づいて Java 実行環境のバージョンを分類し、それぞれ番号付けしたものです。番号の異なるバージョン間では、ファイル保存したバイナリデータに非互換が存在することが確認されています（2012 年 12 月 7 日現在）。

- (1) 1.4.2 (j2re1.4.2)～1.4.2_02 (j2re1.4.2_02)
- (2) 1.4.2_03 (j2re1.4.2_03)～1.4.2_10 (j2re1.4.2_10)
- (3) 1.4.2_11 (j2re1.4.2_11)～1.4.2_19 (j2re1.4.2_19)
- (4) 1.5.0 (jre1.5.0)～1.5.0_05 (jre1.5.0_05)
- (5) 1.5.0_06 (jre1.5.0_06)～1.5.0_22 (jre1.5.0_22)
- (6) 1.6.0 (jre6)～1.6.0_01 (jre6u1)
- (7) 1.6.0_02 (jre6u2)～1.6.0_25 (jre6u25)
- (8) 1.6.0_26 (jre6u26)～1.6.0_34 (jre6u34)
- (9) 1.6.0_35 (jre6u35)～1.6.0_37 (jre6u37)